

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 227号  
 平成22年11月29日発行  
 久慈農業改良普及センター  
 TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

## ○誘客力強化に向けた県北圏域の産直交流を推進○

～県北圏域の産直相互視察・交流会を開催しました～

産直施設の交流促進を通じた誘客力強化を目的として、10月12日に久慈・二戸地域の産直相互視察・交流会を開催しました。これは、県北広域振興局が今年度取り組んでいる「県北圏域産地直売所パワーアップ推進事業」の一環として実施したものです。

今回は、二戸地域の産直組合員等が久慈地域の産直を視察しました。また、9月13～15日に実施した「産直個別巡回指導」で、事業のトータルアドバイザーである高木響正氏からアドバイスされた、産直毎の長期的「戦略」や店舗のディスプレイの改善等の「戦術」を再確認し、今後の対応方向について意見交換しました。出席した産直組合員からは「他産直と品目交流を進めたい」「有益なアドバイスが多く、是非実践したい」等の感想があり、誘客力強化に向けた気運が高まっています。

今後は、県北圏域の7産直が作成中の誘客力強化計画の報告会を11月に開催するとともに、産直相互が連携した交流イベント等について検討することとしております。



出荷者個別のコンテナから品目毎の陳列に改善された売り場

## ○農業大学校生や高校生が将来の就農に向けた抱負を語る○

～久慈地方出身農業大学校生と地域農業関係者との懇談会が開かれました～

久慈地方出身の岩手県立農業大学校生や、農業関係の進路に興味を持つ高校生を対象に、10月26日に地域農業関係者との懇談会を開催しました（久慈地方農業農村活性化推進協議会主催）。

懇談会には、農業大学校生7名（うち3名は県外出身者）、高校生4名が参加し、農業現場の視察や農業者との意見交換を行いました。

当日午前中は、洋野町大野地区の花き栽培と種市地区の野菜栽培を視察しました。参加した学生は視察先での農業者による説明を熱心に聞き、農業の魅力や農家経営の難しさについて学びました。

意見交換では地元農村青年クラブ員も加わり、クラブの活動状況や自身の営農について紹介し、就農に向けたアドバイスなどが話されました。

農家出身でない学生からも地元に戻っての就農を希望する声が多く聞かれたため、数年後には関係機関・団体が連携しながら、円滑に就農できるよう支援していきたいと思っております。



シクラメンの栽培施設を視察する参加者

## ○くじの酒米品質大躍進！○

～ 久慈地方酒米研究会の取り組み ～

「久慈地方酒米研究会」（宇部繁会長、会員11名）が酒米生産と地産地消の地酒づくりに取り組み、今年で3年目になりますが、ついに目標としていた「全量1等米」を達成することができました。

手探りの中で「ぎんおとめ」の栽培を始めた初年目は、着色粒と胴割れが多く3等米でした。夏期が低温となった2年目は、施肥や収穫乾燥作業を改善して契約数量を確保したものの、やはり品質向上が課題として残りました。

3年目の今年は、契約数量の増加により栽培面積は90a（前年の1.5倍）に拡大しました。「今年こそ高品質の酒米を生産しよう」と、研究会では決意も新たに、栽培法の検討や先進地研修等の活動を行ってきました。また、これまで他地域の生産者の協力を得て行っていた選別調製作業も、地元で行えるよう体制も整えました。

今年は、久慈でも春の低温から一転して記録的な猛暑となり、栽培管理には苦心しましたが、「全量1等米」という検査結果は研究会としても大いに自信を深める成果になりました。

酒米はこれから地元の（株）福来で醸造されますが、今から「涼霞（すずかすみ）」の新酒が待ち遠しい限りです。



猛暑から一転、出来秋は雨が続き、晴れ間をぬっての収穫作業となりました

## ○ほうれんそう No. 1 産地を目指して○

～ 県北圏域ほうれんそう生産者技術交流大会開催～

久慈、二戸地域のほうれんそう安定生産を目指し、県内産地、生産者で持っているノウハウを共有する事を目的として「県北圏域ほうれんそう生産者技術交流大会（主催：久慈地方農業農村活性化推進協議会、共催：二戸地方農林水産振興協議会他）」が開催されました。

岩手県北地域では夏期冷涼な気候を活用することでほうれんそう栽培が拡大してきたものの、土壤病害により夏場の生産性は長らく不安定な状態が続いており、関東産地との市場シェアも水を空けられています。

この夏場の差を埋めるため、まず普及センターから今年の猛暑でも平年並み以上の収量を上げている優良事例の類型が示されました。次に土壤消毒を栽培体系に組み入れている八幡平市の工藤勝弘氏より、何より「夏場にもきっちりほうれんそうを穫ることを考えなければならない」として“土壤消毒の必要性とその効果”を中心に講演を頂きました。

参加者からは、消毒時期の効果比較や土壤消毒後の管理の注意点などについて質問があり、来年に向けて決意を固める交流大会となりました。



土壤消毒について講演される  
工藤勝弘氏